



# 持続可能な社会を目指す

## 防災教育

防災に関する学習を重視し、「5.自然災害による危険」「6.自然災害による傷害の防止」に加え、発展的な学習内容として「共に生きる」を設けました。(p.70-75) また、口絵や章末資料では、さまざまな自然災害の危険と安全な避難の方法、気象情報の入手方法、自助・共助・公助などについて扱いました。

### 危険の予測と回避

下のイラストのような場面で地震が起きたとき、どのような行動をとれば災害、海岸の例では二次災害に着目して考えてみましょう。

**危険の予測と回避**

自分の住んでいる地域で大きな地震や気象災害が起こったときの避難場所や避難経路を調べてみましょう。

▲ p.73 保健編 3章 「6. 自然災害による傷害の防止」

本文ページでは、**危険を予測し回避する力の育成**を大切にしました。

### 気象情報の入手方法

**気象情報の入手方法** 気象情報は、気象庁や市区町村などから、さまざまなメディアを通して入手できます。

**防災気象情報と警戒レベル**

警戒レベル	防災気象情報	対応
5	大雨特別警報	災害がすでに発生しており、命を守るための最善の行動をとる
4	土砂災害警戒情報	危険な区域の外の少しでも安全な場所に、速やかに避難する。
3	大雨警報 洪水警報	高齢者等は速やかに避難 土砂災害警戒区域等や急激な水位上昇の恐れがある河川沿いでは、避難準備が整い次第、避難開始。
2	大雨注意報 洪水注意報	ハザードマップ等で避難行動を確認 危険な区域や避難場所等を再確認する。
1	早期注意情報	災害への心構えを高める

▲ p.87 保健編 3章 章末資料

近年多発する気象災害に備え、**気象情報の入手方法**と安全な行動について掲載しました。

### 周囲の人と支え合う

### 社会全体で取り組む

### 自助・共助 公助

防災・減災を目指して**地域の人たちと支え合うこと**の大切さを、口絵や読み物で取り上げました。

**国や都道府県、市区町村**

- 法や条例の整備
- さまざまな計画の立案
- 情報の集約、分析、発信

**気象予報士** 気象データを分析し、天気や災害を予測して伝える。

**地震学者** 地震が起こる仕組みや防災などについて研究する。

**地域の防災訓練** 体育館で避難所運営訓練を行う。(青森県青森市)

**地域の防災訓練** 消防隊の訓練を行う。(東京都足立区)

**消防隊員** 災害発生時は、協力して被災者の救助などを行う。

**警察官**

**自衛隊員**

▲口絵7-8「支え合って生きている」

**中学生が深めた地域のきずな**

**読み物** 高知県黒潮町佐賀中学校では、伝統的に、生徒が一人暮らしの高齢者の家を訪問する活動を行ってきました。しかし、近年は、高齢者施設を利用するために自宅にいかなくなり、自宅にいても対応がうまくいかなかったり感じたりするなどの理由で、自宅の訪問を快く歓迎できない人も増えていました。そのような状況の中で、2016年から、訪問するとき、地域の防災の視点から、災害発生時の避難経路を中学生と高齢者がいっしょに確認する、自宅の災害対策などを聞き取る、昭和南海地震(1946年発生)のときの体験談を聞かせてもらうなどの活動も行うようになりました。すると、快く話をしてくれる高齢者が増え、更には中学校の文化祭に来てくれる高齢者の数も増えました。中学生たちも「高齢者と話が盛り上がるようになった」と感じています。中学生が中心となって地域のきずなを深めることに成功したのです。

**資料 5 避難カルテを作成する中学生(高知県黒潮町)**

▲p.75 保健編3章「共に生きる」読み物

安全に関する学習を重視し、「防犯」「交通安全」「応急手当」「心肺蘇生法」「運動やスポーツの安全な行い方」などに多くのページを配当しました。(p.61~69,76~85, 116~117,121~124など)

防犯

### 4 犯罪被害の防止

見つける 小学生や中学生は、どのような場所で犯罪の被害に遭っているのでしょうか。

学習課題 犯罪被害の発生に関わる要因やそれを防ぐ対策にはどのようなものがあるのでしょうか。

環境要因とその対策

①領域性を高める  
②監視性を高める  
③抵抗性を高める

81

▲ p.68 保健編 3章 「4. 犯罪被害の防止」

犯罪被害の発生要因や防ぐための3要素を科学的に理解し、思考、判断、表現できるように構成しました。

運動やスポーツと安全

### 8. 野外スポーツを安全に行う

8.1 危険を予測し、対策を考えておく  
8.2 ルール・マナーをしっかり守る  
8.3 気象情報に注意する  
8.4 安全を最優先する

川の危険  
海の危険  
山の危険

124

▲ p.124 体育編 2章 章末資料

野外の活動では、自然や気象に関する知識をもち注意する必要があることを取り上げました。

心肺蘇生の方法

### 1 正しい心肺蘇生法を確認し、実習してみましょう。

心肺蘇生の方法(胸骨圧迫)

胸骨圧迫は、胸骨の上から心臓を圧迫することによって、血液を循環させ、脳や、心臓の筋肉に酸素を送るために行う。

圧迫する場所  
手の置き方  
圧迫の仕方

81

▲ p.81 保健編 3章 「心肺蘇生の方法(胸骨圧迫)」

「リラクゼーションの方法」や「心肺蘇生の方法」などの技能のページは、豊富な写真やイラストで、手順をわかりやすく示しました。また、それぞれ専門家の監修によって制作したデジタルコンテンツを用意しました。

心肺蘇生の方法(胸骨圧迫)(動画)



保健分野で初めて加わった技能の実習の方法が、動画でよく分かる



## 性の多様性

心身の発育・発達には**個人差**があることを本文の随所に記し、「**自分らしさ**」「**その人らしさ**」を**尊重**できる資質・能力を育成することができるように配慮しました。

章末資料では、**LGBT**などの**性の多様性**について考える資料を取り上げました。

### 章末資料

## 2. 性の多様性

発展

⑤・P.24【生殖機能の成熟】  
⑥・P.28【異性の尊重と性情報への対応】

やっくんの場合



- ・生物学的な性：女性
- ・心の性：男性
- ・好きになる性：女性

高2のとき、自分の性のことをクラスの友だちに泣きながら打ちかけたら、すぐに「やっくんはやっくんだから、いいじゃん」といってくれた。それまで10年近く、自分で自分のことが気持ち悪かったし、生きる価値なんてないと思っていたから、「うおおーっ」ってさげばたいくらいうれしかった。ほかの友だちも、「いいじゃない」といってくれて、ぼくの世界が変わった。生きている価値ってある、と思えるようになったんだ。

①・P.172【国語科「スポーツの価値」】  
渡辺大輔監修、ポプラ社「いろいろな性、いろいろな生き方③ありのままでいられる社会」より引用



▲p.44 保健編2章 章末資料

## スポーツを通じた多様な関わり

口絵では、**パラリンピックの価値**や、**スポーツを通じた多様な関わり方**を紹介し、スポーツには**共生社会実現**を促進する力があることを理解できるようにしました。

▶口絵 1-2  
オリンピック・パラリンピックのメッセージ

**オリンピックの3つの価値**

- 卓越 Excellence**：より高い目標を目標として努力する
- 友情 Friendship**：スポーツを通して得られる友情や絆
- 敬意/尊重 Respect**：互いに敬意を払い、ルールを尊重することによって平和に競技を続ける

**パラリンピックの4つの価値**

- 勇気 Courage**：不可能と恐れられることを打ち破り、目標に向けて最後までやり抜く覚悟
- 強い決意 Determination**：困難があっても、目標に向けて最後までやり抜く覚悟
- インスピレーション Inspiration**：人々に感動と勇気を与える
- 平等 Equality**：多様な才能、異なる身体状況の選手が互いに支え合える

4年に一度開かれるオリンピック・パラリンピックでは、アスリートの素晴らしいパフォーマンスはもちろん、国を超えて選手どうしがたえ合う姿や、アスリートにまつわるさまざまなニュースや報道から、多くのことを学べることもできます。あなただけ、オリンピック・パラリンピックから、どんなことを感じてください。

①・P.172【国語科「スポーツの価値」】

**人と人をつなぐスポーツ**

スポーツには、さまざまな違いを超えて人々を結びつける力があります。白紙から始まる運動やスポーツを、小さい子どもや高齢者など、さまざまな人と一緒に楽しむには、ルールや用具などどんな工夫をしたらよいでしょうか。

⑤・P.52【運動やスポーツの多様な関わり方】  
⑥・P.54【運動やスポーツの多様な関わり方】  
⑦・P.174【人々を結びつけるスポーツ】

**ふせんバレーボール**  
福岡県北九州市で生まれたスポーツ。障がいのある人とない人のチームが1対1を基本として、合計で8人以下の6人でチームを組む。6人全員がうまくボールを蹴って相手コートに選手全員参加型。

**イモムスラグビー**  
専用のイモムスラグビーを着て行うラグビー。年齢や性別、障がい、運動の得意不得意に関係なく楽しめる。

**ブラインドマラソン練習会**  
「さすな」とよばれるロープをつり、障がいのある人とない人が「タッチャー」として互いにタッチしながらかんぽうを楽しむ。

**国々民族を超えて**

2020東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン交流事業（障害者参加型、イタリア）  
福島の中学生チームがイタリアで開催された15日程度国際大会に出場し、イタリアチームと交流した。

イタリア中学生チーム（2016年）の成功は、イタリアを訪問し、現地の子どもたちに日本文化の魅力を伝える機会となった。

**スポーツで国際交流**  
（中国）  
地域のイベントで、海外の人たちと交流し、互いに理解を深めようとする取り組み。

**卓球バレー**  
1チーム6人が卓球台を囲むように並び、昔の卓球のように、ネットの下を駆けてボールを打ち合うスポーツ。京都府で広がり始めた。障がいのあるスポーツとして、アスリートと障がい者の協働も進んでいる。

◀口絵 3-4  
人と人をつなぐスポーツ